

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	映像リテラシーC1（映像メディア2）
科目基礎情報				
開設学科	放送芸術科	コース名		開設期 前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	2単位			授業形態 講義
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。			
担当教員情報				
担当教員	佐藤博昭		実務経験の有無・職種	無
学習目的				
今日の映像を巡る環境は多様化しているが、歴史上の重要な映像作品を鑑賞し、それが制作された意味を知ることは重要である。少なくとも映像を制作するものが、知っておくべき歴史を学ぶことができる。一方で、映像技術の展開を、映像による様々な表現と照合しながら、今日に至る多様性をたどり考察する事ができる。メディアとしての映像は、産業としての多様な発展を繰り返し、映像と隣接する芸術分野への波及は新たな表現を生み出した。各回で主要な作品とその背景を分析し、表現方法とコンセプトの関係を知る事ができる。				
到達目標				
映像メディアの歴史と表現との相関を説明できる。映像の形式・分類にとらわれず、作品を見る力と批評する能力を身につける。映像表現に隣接する諸芸術やその時代背景などに幅広く関心を持つことができる。				
教育方法等				
授業概要	映像表現の現状を把握するために、映画、ビデオ、アニメーション、CG、メディアアートなどの表現を紹介し、その技術・表現を考察する。その後、時代をさかのぼりながら、いくつかの時代と表現方法によって分類し、カテゴリー別にその特徴や作家の方向性を考察できるように設定する。授業は大きく分けて、以下の3つのパートに分かれるが、1～3の順番ではなく、時代を行き来しながら構成していく。 1.劇映画・記録映画 2.アニメーション・CG・個人映像 3.現在の様々な映像表現			
注意点	映像作品を正しく鑑賞する態度を身につけるために、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。各回で紹介した映画、映像については、同一の作者の他の作品や関連する映像を、積極的に調べてほしい。検索に必要なキーワードなどはその都度提示する。毎回、授業の始めにコメントペーパーを配布し、感想や疑問点、質問などを記入する。授業の終わりに回収し、質問への回答などは次回の冒頭にフィードバックする。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験・課題	80%	学期末試験の点数を評価する	
	コメントペーパー	10%	各回の感想や質問を記入してもらうが、特に記述が優れたものは最大10%の割合で評価する	
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
授業計画（1回～8回）				
回	授業内容		各回の到達目標	
1回	映像表現の多様性-1		「時間」「映画」を描くオムニバス短編映画を観ることで、映画と時間との関係を理解する	
2回	映像表現の多様性-2		電子映像の発明と歴史を知る。初期実験映画とビデオアートについて、その表現を観る	
3回	映像表現の多様性-3		アートドキュメンタリーについて 写真家、画家のドキュメンタリーを見る	
4回	映像表現の多様性-4		映像作家またはビデオアーティストがダンスを記録した映像を観る	
5回	アニメーションの多様な表現-1		日本のアニメーションの歴史を解説する。若い作家による描画によるアニメーション作品を観る	
6回	アニメーションの多様な表現-2		チェコ、フランス、ロシアのアニメーションの表現を知り。アートアニメーションの特色を理解する	
7回	アニメーションの多様な表現-3		様々なメディアとアニメーションとの関係を知る。ドラマや記録映像と融合例を鑑賞する	
8回	まとめ・復習		ここまでの内容の理解を確認する	